

## I 学校の概要

学校名	大蔵村立沼台中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	9
生徒数	9	6	8	0	23	

## II 研究の概要

## 1. 研究主題

『学びを支える授業づくり』  
～見取る・見守る・見届ける指導の充実を目指して～

## 2. 研究内容と方法

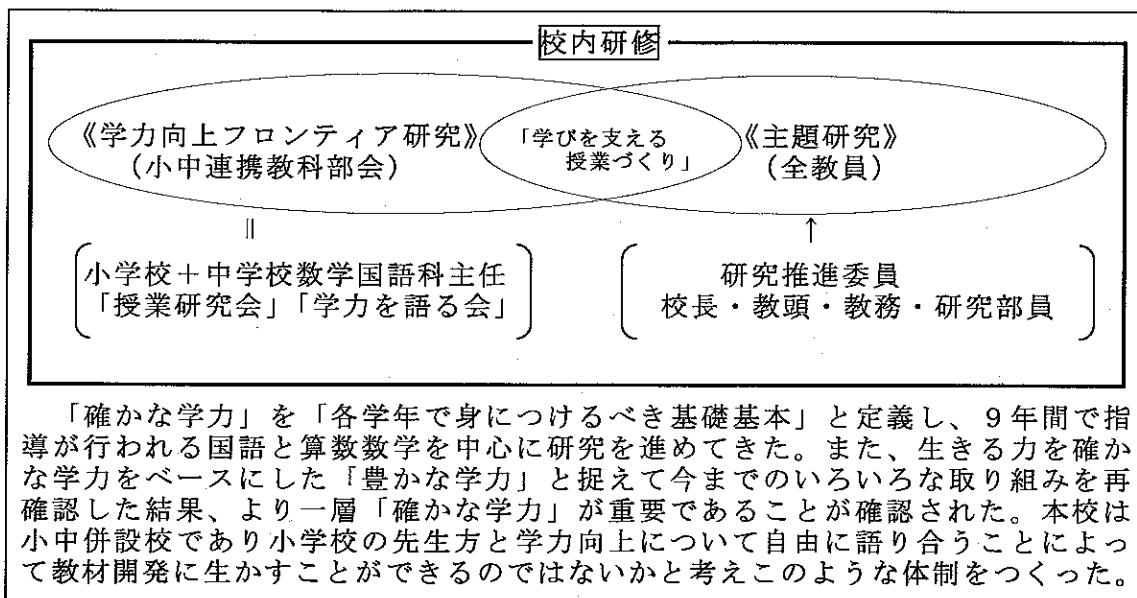
## (1) 実施学年・教科

- ・全学年・数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため  
小学校との連携で9年間の指導を通した研究に取り組めるため
- ・全学年・国語  
全ての教科の基礎的な教科であるため  
小学校との連携で9年間の指導を通した研究に取り組めるため

## (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○テーマ「数学・国語、小学校との連携9年間の指導」</p> <p>○研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教師と中学校の教科担任による校内授業研究会をもとに、「学力を語る会」を設定して学力向上対策を話し合う。</li> <li>・「見取る」・「見守る」・「見届ける」の実践</li> </ul> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力を語る会」で確認されたことを実践していく。</li> <li>・先進校視察を行い、よいところを参考にして学力向上を目指す。</li> <li>・学力の定義</li> <li>・「指導事項一覧」を作成して教材研究、教材開発に役立てる</li> </ul>
平成16年度	<p>○テーマ「5教科、小学校との連携一貫指導」(案)</p> <p>○研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教師と中学校の教科担任による校内授業研究会をもとに、「学力を語る会」を設定して学力向上対策を話し合う。</li> </ul> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力を語る会」で確認されたことを実践していく。</li> <li>・先進校視察を行い、よいところを参考にして学力向上を目指す。</li> <li>・「指導事項一覧」を作成して教材研究、教材開発に役立てる。</li> </ul>

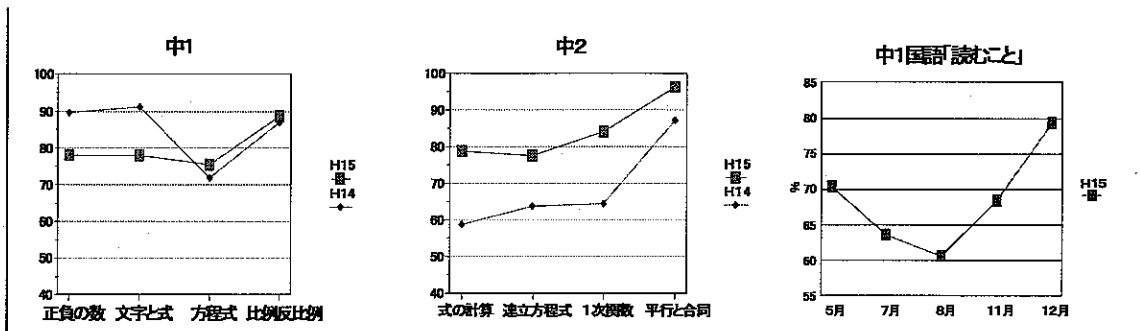
### (3) 研究推進体制



## III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- ・「学力を語る会」で協議した結果、小中連携の在り方、“確かな学力”を“各学年で身に付ける力”と捉え「9年間の指導一覧」を作成し、全員で理解することによって9年間の見通しと重点化した授業が展開されその結果ゆとりのある指導ができるようになってきている。
- ・「見取る」…教師主導ではなく子供主体の授業を構成するためには子供の反応や考えや気持ちを見取る事がとても重要であることがわかった。「学び主体」の授業が定着しつつある。「教える授業」から「学ぶ授業」へ、生徒だけではなく教師も生徒から学ぶ姿勢を大切にしている。「座学の学び」から「活動の学び」という視点からも教材研究が図られ、学習材を工夫し活動の中から課題を設定し、意欲的に問題解決する姿が増えてきた。
- ・「見守る」…考える時間や定着のためのきめ細かな手だてを図ることによって自力解決を促し、達成感と成就感を持たせることができた。また、生徒の「学びのスタイル」(個に応じた対応)としてコース別学習の取組も行われ個に応じた対応が図られた。
- ・「見届け」…単元毎の指導を充実させたり小テストを使ってスモールステップの見届けを行ったりすることによって授業改善が図られた。
- ・「読むこと」では言語・文法事項の確認を重視し接続詞に着目させることで文章を構造化する訓練を繰り返し行った。また、比較的構造の簡単な文章の読解については読解スピードが上がってきている。
- ・キーワードを使ったり、言語事項の指導の徹底を図ることで文章の言葉を使いつつも要約できる力が身に付いた。
- ・このような取り組みから中1・2の数学では単元が進むにつれて昨年度よりも学力の向上が図られた。単元末テストや評価テストの平均点の推移も前年度よりも向上した。特に中1の数学では年度当初は前年度よりも平均点が低かったが一般的に苦手意識が高い「方程式」からは前年度を抜いている。中1の国語においても「読むこと」の領域では月が進むにつれて達成度(%)が向上した。
- ・「確かな学力」とは各学年で身につけさせるべき基礎基本的な内容であり、今後は更に“小中一貫教育をベースに置き、確かな学力に裏打ちされた豊かな学力の育成(応用力)”を目指していかなければならない。そのためにも学習意欲を高める学級経営の在り方や学習環境としての家庭生活や家庭学習の在り方について小中9年間と「学び」の視点から更に研究を深めていかなければならない。



## 2. 今後の課題

- ① 「9年間の指導一覧」の内容の充実と具体的な教材開発
- ② 「学習意欲」(学級経営)と「学習環境」(家庭学習)の整備
  - ・ **学習環境**としての9年間の家庭学習の在り方
  - ・ 9年間を見通した**学習意欲**を喚起するための学級経営の在り方

## IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・ DRT/観点別到達度学力検査(2月、学年末)  
→客観的な観点別の達成度を見る、そして未習熟の所は年度内に補充
- ・ 単元末テスト(各単元終了毎、月1回程度)  
→単元毎の定着度を確かめる、基礎基本の定着と補充
- ・ 評価テスト(学期毎、7月、12月、2月)  
→学期毎の身についた学力の確かめ、応用力の向上
- ・ NRT/全国標準診断的学力検査(4月、学年始)  
→全国標準に合わせた本校の生徒の実態把握、今後の指導の参考資料

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### ○校内研究会等の開催実績及び開催予定

#### 平成15年度の実績

- |           |       |                   |
|-----------|-------|-------------------|
| 9/19 (金)  | 数学    | 第1回「学力を語る会」       |
| 10/3 (金)  | 国語    | 第2回「学力を語る会」指導主事要請 |
| 11/5 (水)  | 国語    | 第3回「学力を語る会」       |
| 11/25 (火) | 算数    | 第4回「学力を語る会」       |
| 1/28 (水)  | 算数・数学 | 第5回「学力を語る会」(総括)   |
| 2/4 (水)   | 国語    | 第5回「学力を語る会」(総括)   |
- 他 校内研修・授業研究会など 10回

#### 平成16年度の予定

- 年間4回の授業研究会(算数数学・国語)と「学力を語る会」
- 「9年間の指導一覧」(算数数学・国語)の作成(改訂版)
- 学力向上と学級経営について検討
- 学力向上と家庭学習の在り方について検討

### ○研究成果の普及のための活動実績(本年度は初年度につき校内のみ)

- ・ 学力向上フロンティアスクール全体構想図
- ・ 「学力を語る会」記録編集、配布
- ・ 先進校の取り組み等紹介「フロンティアだより」発行

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T. Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無